



地域と結ぶ情報誌

ちゅうごくしこく

第6号

編集・発行

中国四国防衛局 総務部

〒730-0012

広島市中区上八丁堀6-30

電話 082 - 223-7109

山口豪雨に伴う災害対処 に尽力



【防府市下右田・真尾地区における人命救助】

派遣部隊：第17普通科連隊(山口駐屯地：山口県山口市)

平成21年7月20日から激しい雨が降り始め、山口県防府市などでは、土石流が相次いで発生し、特別養護老人ホームなどを直撃しました。

特に21日明け方から昼過ぎにかけての大雨により、土砂災害や浸水被害等の大きな災害が発生しました。下関地方気象台によると、明け方から昼頃にかけて山口県の広い範囲で降った雨は1時間50mm以上と非常に激しく、日降水量では270mmに達するなどまれにみる豪雨となりました。

(次ページへ続く)



(前ページより続く)

21日、山口県知事から第17普通科連隊長（山口駐屯地司令）に対し災害派遣要請（行方不明者捜索）があり、捜索活動を開始、22日からは勝坂峠及び真尾（まなお）地区老人ホームにおいて地上捜索及び山口市内で給水活動を、23日からは山口市内で入浴支援活動を実施しました。

28日には最後の行方不明者が発見されたため、捜索活動は終了、29日には給水支援が、30日には入浴支援が終了し、同日の撤収要請により部隊は帰隊しました。



【山口市内における入浴支援】

場所：小鯖小学校（山口市内）

大内南小学校（山口市内）

延べ入浴者数：約1000名

派遣部隊：第3後方支援連隊（千僧駐屯地：兵庫県伊丹市）

第13後方支援隊（海田市駐屯地：広島県安芸郡）



【山口市内における給水支援】

場所：山口市内

総給水量：約1500t

派遣部隊：

- 中部方面衛生隊（伊丹駐屯地：兵庫県伊丹市）
- 第3後方支援連隊（千僧駐屯地：兵庫県伊丹市）
- 第8普通科連隊（米子駐屯地：鳥取県米子市）
- 第13偵察隊（出雲駐屯地：島根県出雲市）
- 第13特科隊（日本原駐屯地：岡山県勝田郡）
- 第13戦車中隊（日本原駐屯地：岡山県勝田郡）
- 第13高射特科中隊（日本原駐屯地：岡山県勝田郡）
- 第46普通科連隊（海田市駐屯地：広島県安芸郡）
- 第13後方支援隊（海田市駐屯地：広島県安芸郡）
- 第13施設中隊（海田市駐屯地：広島県安芸郡）
- 第13通信中隊（海田市駐屯地：広島県安芸郡）
- 第13旅団司令部付隊（海田市駐屯地：広島県安芸郡）
- 第17普通科連隊（山口駐屯地：山口県山口市）
- 第14後方支援隊（善通寺駐屯地：香川県善通寺市）



【延べ実績】

捜索救助：約900名
 総給水量：約1500t
 延入浴者数：約1000名

【お知らせ】

米軍基地での勤務を希望される方へ！

求人情報掲載の独立行政法人駐留軍等労働者労務管理機構ホームページへ、アクセスを！お近くの職安からも応募できます。

(H P) <http://www.lmo.go.jp>

(携帯) http://oubo.lmo.go.jp/bosyu_list_m/

お問い合わせ先

独立行政法人駐留軍等労働者労務管理機構

岩国支部

呉分室

岩国市中津町2-15-35

呉市中央1-6-9センタービル呉駅前4F

TEL 0827-21-1271

TEL 0823-32-7087



第2回岩国基地に関する協議会開催



平成21年7月14日、岩国基地に関する協議会が、岩国市役所において開催されました。

この協議会は、岩国飛行場への空母艦載機の移駐等に関し岩国市から要望された安心・安全対策の一つである「国と岩国市の定期的な協議の場」として、中国四国防衛局、岩国市及び山口県の三者で構成され、米軍岩国基地に係る安心・安全対策について、共同して問題解決を図るために設置されました。本年2月の第1回会合に引き続き、今回が第2回の会合です。

当局から中村局長ら、岩国市から福田市長ら、山口県から藤部総務部理事が出席し、2時間余りにわたり協議等を行いました。

内容としては、第1回協議会で協議された、街頭緊急通報システム（通称：スーパー防犯灯）の設置、住宅防音工事の未実施世帯への対応など4項目の進捗状況の報告、次に、セーフティブリーフィング、日米親善交流事業、航空機騒音の測定監視体制の充実など安心・安全対策に係る7項目についての協議、最後に、山口県警が創設したSPI（特別機動警察隊）による警備活動状況の報告が行われました。

終了後の記者会見で中村局長、福田市長、藤部理事が協議概要について説明し、今後とも引き続き、市民の安心・安全の確保に傾注し、多くの市民に納得のいくような結果を出すべく努力する旨話をして締めくくりました。

安心・安全共同パトロールの実施





8月7日、山口県岩国市において「安心・安全共同パトロール」が行われました。

当局から中村範明局長ら、岩国市から福田良彦市長ら、山口県から中村正昭岩国県民局長ら、米軍岩国基地からマイケル・オハローラン司令官らのほか、地元住民で組織する防犯パトロール隊のメンバーら計約40人が参加し、基地そばの川下地区及び岩国駅前の麻里布地区を2時間余りにわたり、飲食店や通行人らに「『くらしやすい安心・安全なまち』を！」と書かれたビラを配って歩きました。

当該パトロールは前出の「岩国基地に関する協議会」第2回会合における協議を踏まえて実施されたもので、「自らの地域は自らが守る」という市民の防犯意識の向上を狙ったものです。

午後7時前、岩国市役所川下出張所駐車場で出発式が行われ、出発式で福田市長は参加者を前に「全ての市民がくらしやすく、安全で安心できるまちづくりに自らの力で取り組むことは大変重要なこと。行政と市民、基地関係者が合同でパトロールを行うことになったが、パトロールを通じて自らの力で守るという意識を根付かせたい。大変暑い夜だが、元気で出発しましょう」と声をかけました。

岩国市における地域評価型総合評価方式の説明



8月5日、岩国市商工会議所において地域精通度、貢献度などを加味した総合評価方式など入札制度の説明を実施しました。（次ページへ続く）

(前ページより続く)

当該評価方式は、地域に根ざし当該地域住民に信頼が置かれていることが円滑な工事や良質な施工につながることで、また、地域に精通することにより良質な資材及び有能な労務者等が確保され品質の高い施工が期待できることから導入されるものです。

説明会には、入札参加条件の緩和などに期待する土木・建築、資材関連業者など約110社の関係者が参加し、説明会に先立ち、長野商工会議所会頭及び福田岩国市長から「地元企業の参入機会を拡大することで受注機会が増え、雇用の場が増大、全体の経済が活性化することを期待している。この機会を活用して受注につなげてほしい」旨あいさつがありました。

局からは大石調達計画課長が防衛省における入札制度全般について、今井契約課長が地域評価型総合評価方式について説明を行った後、参加者からの質疑応答を行いました。

なお、「建設工事の入札公告等」の情報については中国四国防衛局のホームページをご覧ください。

【<http://www.mod.go.jp/rdb/chushi/kensetsu/hiroshima/koukoku/mokuroku.htm>】

平成21年版防衛白書発表及び説明



【岡山県知事に説明】



【鳥取県知事に説明】

7月17日の閣議で、平成21年版防衛白書『日本の防衛』が報告、了承されました。

21年版白書は昨年版と同様4部構成で、宇宙基本法の制定や今年末に予定されている防衛大綱の見直しを踏まえ、第Ⅱ部に「宇宙および海洋に関する新たな取り組み」と「防衛力のあり方に関する検討」を新たに設けたほか、第Ⅰ部で北朝鮮の核・ミサイルの動向や中国海軍のわが国周辺での活動状況を初めて図入りで記述しています。このほか、防衛省改革の進捗状況などが主な内容です。

当局においては、中村局長をはじめ局幹部職員が関係自治体に白書の説明を実施しました。

(7月21日から市販(税込み1200円)されています。)

海賊対処1次隊がソマリアから帰国



8月16日、東アフリカ・ソマリア沖のアデン湾で海自部隊として初めて民間船舶の護衛のため派遣されていた第1次派遣海賊対処水上部隊（護衛艦「さざなみ」「さみだれ」で編成、指揮官・五島1佐以下約400人）が5か月ぶり呉に帰港しました。

1次隊は3月14日から8月16日までの間、ソマリア沖に派遣され、海警行動のもとアデン湾で41回、計121隻の船舶の護衛活動を完遂しました。

8月25日には、同部隊に総理大臣の特別賞状が贈られ、「アデン湾において海賊行為の抑止に大いに寄与し、自衛隊に対する国内外の信頼を深めた」との賞状が浜田防衛大臣から指揮官の五島1佐に伝達されました。

海自補給艦における災害派遣訓練



6月30日、広島県呉市沖の呉湾で、海上自衛隊の補給艦「ましゅう」（1万3500ト）を使った災害派遣訓練が行われました。

隊員や自衛隊呉病院（呉市）の関係者ら約250人が参加し、地震発生時の医療体制や負傷者の受け入れの手順などを確認しました。

「ましゅう」は高度な医療施設や46床の入院施設がある最新鋭の補給艦で、訓練は初めて公開されました。

瀬戸内地方で震度6強の地震が発生し、離島に負傷者が多数いるとの想定で、災害地沖の「ましゅう」に医官や看護師が乗り込み、医薬品などを搬入しました。艦内では、収容した負傷者に医官が治療の優先順位をつける「トリアージ」などを行いました。

「しょうなん」命名・進水式



6月29日、三井造船玉野事業所において海上自衛隊の海洋観測艦「しょうなん」の命名・進水式が行われました。

「しょうなん」は全長103㍎、最大幅約16㍎、速力16ノット。音響観測、海底地形の調査が主な任務で、そのための観測機器を搭載しています。

現在稼働している海洋観測艦4隻のうち1隻「ふたみ」の退役に伴い、来年3月末に引き渡され、日本近海で海底温度や塩分濃度、水深調査などの海洋調査活動に当たる予定です。

式には、関係者約400名が出席し、艦首につけられたたくす玉が割られ、船がゆっくりと進水、会場から大きな拍手が起こりました。

「防衛」について身近に考えてみませんか。



【高知県地域防災フェスティバル】



【大学等における講義】

中国四国防衛局では、わが国の安全保障や国の防衛に関する問題について、広く国民の皆様にご理解を頂くため、防衛省の政策や自衛隊の活動の現状などについての情報を積極的に提供することとし、今後も引き続き、防衛問題セミナー等を開催します。これを機会に「防衛」について身近に考えてみませんか。

防衛省の政策や自衛隊の活動等に関する講演等について、当局管内の自治体や学校等で御要望があれば防衛省・自衛隊から講師を派遣します。

なお、講師の派遣に伴う経費等の必要は一切ありません。

【お問い合わせ先】

中国四国防衛局 企画部 地方調整課 (Tel.082-223-7153) です。